

「日口知事会議」への参加について

概要報告

<令和元年5月12日(日)～15日(水)>

1 日程

	月日	都市	現地時間	行程
1	5月12日 (日)	成田 モスクワ	12:15 16:05 19:00	成田空港発 モスクワ(シェレメチェボ)空港着 在ロシア日本大使主催の夕食会 (モスクワ泊)
2	5月13日 (月)	モスクワ	10:00 10:30 11:00 11:50 12:20 13:15 14:10 15:00 15:40 16:25 16:50 18:30	集合・受付 <場所:ペトロフスキー宮殿> コジェミャコ沿海地方知事との個別会談 日ロ知事会議 開会式 (第1部)日ロ関係における地域間協力の役割 <知事から本県の取組み紹介> ベグロフ サンクトペテルブルク知事代行との個別会談 (第2部)中小・零細企業の発展と産業・インフラ施設に対する投資の誘致等 コサチョフ ロシア連邦院国際問題委員長との会談 (第3部)ロシア連邦構成主体と日本都道府県による技術革新への支援 (第4部)文化・人文分野の協力と青少年交流の発展に対する地方の貢献 閉会式 シュヴィトコイ国際交流担当ロシア連邦大統領特別代表との個別会談 ザリャジエ公園視察・夕食会 (モスクワ泊)
3	5月14日 (火)	モスクワ	10:20 11:30 14:00 15:00 19:00	ステパノフ文化省次官表敬訪問 FESCO本社表敬訪問(イスリン社長) <シベリア鉄道を活用した物流についての協議等> 昼食懇談会 ロシア連邦院 マトヴィエンコ議長表敬訪問 モスクワ(シェレメチェボ)空港発 (機中泊)
4	5月15日 (水)	成田	10:30	成田空港着 解散

2 参加者

(1) 富山県参加者

富山県知事	石井 隆一
理事・総合政策局次長・企画調整室長	柿沢 昌宏
生活環境文化部次長	清原 明宏
総合政策局秘書課長	小杉 健
商工労働部立地通商課物流通商班長	吉澤 泰樹

(2) 全国知事会参加者

会長・埼玉県知事	上田 清司
北海道知事	鈴木 直道
茨城県知事	大井川 和彦
岐阜県知事	古田 肇
鳥取県知事	平井 伸治
岡山県知事	伊原木 隆太
鹿児島県知事	三反園 訓

(3) ロシア側参加者

ロシア連邦院議長	マトヴィエンコ・ヴァレンチナ
ロシア連邦院国際問題委員長	コサチョフ・コンスタンチン
国際文化協力担当大統領特別代表・特命大使	シュヴィトコイ・ミハイル
モスクワ市長	ソビャーニン・セルゲイ
モスクワ州知事	ヴォロビョフ・アンドレイ
沿海地方知事	コジェミャコ・オレグ
サンクトペテルブルク市知事代行	ベグロフ・アレクサンドル

など31名

3 活動結果

5月12日(日)モスクワ市内

(1) 在ロシア日本大使主催夕食会

ア 日 時：5月12日(日) 19:00~21:00

イ 場 所：在ロシア日本大使公邸

ウ 知事会側：上田全国知事会長、石井富山県知事 など計8名

エ 相手方：上月(こうづき)駐ロシア日本国特命全権大使 ほか

オ 内 容：

- 日口知事会議に先立ち、上月大使から、ロシア情勢の日露関係についてブリーフィングを受けた。上月大使からは、
 - ・石油・ガスに依存した成長モデルが行き詰まり気味(油価が高くても低成長)で、改革が十分には進まず、設備投資が不足、生産性が低迷している状況のもと、ロシア政府は、インフラ整備、デジタル経済、農業、観光、医療、環境の産業分野を重視し、経済・産業政策に取り組んでいる。
 - ・財源確保のため、年金改革(受給年齢の引上げ)、付加価値税の増税(18%→20%)を断行したが、大統領の支持率の急落もあった。
 - ・そのため、プーチンロシア大統領の信頼回復のためにも、地方においては、連邦構成主体の首長の動きぶりを評価し、政策実行能力のある人物の積極的な起用を進めているとみられる等の説明があった。
- 石井知事からは、貨物を伏木富山港からウラジオストクに運び、ウラジオストクからシベリア鉄道を利用し、日本からモスクワ、ヨーロッパへと運搬できる物流ルート、シベリア・ランド・ブリッジが確立されれば、日本、ロシアの双方にとって大きなメリットになる。しかしながら、ロシア側も改善の方針を表明しているが、実際にはウラジオストクの通関・荷役手続きの迅速化やシベリア鉄道の定時制、速達性の向上がなかなか図られない。
- 他方、日本からロシアへの輸出は、自動車関連が多く、特に本県からの輸出は、中古自動車が多くなっている。こうした中、ロシアの関税等の政策は、最近では、関税の税率は下げているが、それ以上に、外国からの輸入車に対し、リサイクル税の負担が大きくなっている。WTOの原則に従い貿易を促進することが、中長期的には双方の国にとってメリットが大きいと考えているが、この10年来の経過もあり、日口知事会議の限られた時間のなかで、前者のシベリア・ランド・ブリッジの問題を中心に提起したいと考えている。
- また、今年は第9回シアター・オリンピックスが日本の富山県(利賀、黒部)とロシアのサンクトペテルブルクとの共同開催となった。そこでサンクトペテルブルク市のベグロフ知事代行とお会いし、互いに協力しあって成功させたいと意見交換することになっていることなどを説明した。
- これに対して上月大使からは、シベリア鉄道の課題については、プーチン大統領も問題であると思っているので、明日の日口知事会議では、積極的に提言いただくのがよいのではないかとご助言をいただいた。



大使公邸での夕食会



大使公邸で記念撮影

5月13日(月)モスクワ市内

(1) コジェミャコ 沿海地方知事との個別会談

ア 日 時：5月13日(月) 10:30~10:55

イ 場 所：ペトロフスキー宮殿 2階「庭園の客間」

ウ 富山県側：石井富山県知事、柿沢理事

エ 相手方：コジェミャコ 沿海地方知事ほか1名

オ 内 容：

- 石井知事から、①富山県と沿海地方の1992年以来、27年間におよぶ、海外技術研修員、県費留学生、県職員派遣などの交流、伏木富山港とウラジオストク商業港の友好関係の実績があること、②2年前の2017年に友好提携25周年を機に、経済・貿易、港・鉄道、文化、観光・環境などの各般の交流を深めるための新しい協定を締結したこと、③ウラジオストクの通関・荷役の迅速化、シベリア鉄道のウラジオストクからモスクワへの高速化を図り、伏木富山港からモスクワまで、少なくとも14日から15日で輸送できるようにFESCOに働きかけていること、④本県では医薬品やアルミなどの金属、機械、電気・電子部品などの製造業が盛んであり、本年10月に開催されるものづくり見本市に、沿海地方からこれまで以上に多くの企業に参加していただきたいこと、⑤シアター・オリンピックスの関連プログラムが、利賀に本拠を置くSCOTのメンバーが参加してウラジオストクでも開催されること、⑥将来、エルミタージュ美術館の分館がウラジオストクに建設された場合、富山県美術館との交流を行っていただきたいこと、⑦日本海沿岸地域のごみ漂着などの環境問題にロシア、中国、韓国の自治体が相互に協力して取り組み、特に富山県は北東アジア自治体連合(NEAR)の環境分科委員会のコーディネート自治体を務めていること、などについて述べた。
- コジェミャコ知事から、①シベリア・ランド・ブリッジの活性化を、石井知事の提案のように早期に実現したいこと、シベリア鉄道の高速化のため、港や鉄道関係者へ働きかけていきたいこと、FESCOの幹部に富山県へ出向き、具体的に話を進めるように伝えること、②ものづくり見本市の招待状をもらえれば参加したいこと、③富山県の廃棄物処理事業、ICTなどを活用した先進的な農業、医薬品などのものづくり産業に関心があり、富山県を訪れて視察などを行いたいこと、④シアター・オリンピックスのプログラムの一部が沿海地方でも開催されることに協力したいこと、などのお考えを伺った。
- 石井知事から、コジェミャコ知事が興味を持たれている廃棄物処理事業、ICTなどを活用した先進的な農業、ものづくり産業について、県内の先進的な事業者の取組みのほか、ものづくり見本市についての視察などを提案した。

- 最後に、これまで結んだ協定を踏まえて、物流の高速化、定時性化や経済貿易、先端技術などの交流、文化交流などを拡大させたいことなどを両者で改めて確認した。



コジェミャコ沿海州知事（左）との会談



富山県美術館の収蔵作品図録の説明

(2) 日口知事会議

ア 日 時：5月13日（月） 11：00～16：40

イ 場 所：ペトロフスキー宮殿

ウ 知事会側：上田全国知事会長、石井富山県知事 など計8名

エ 相手方：マトヴィエンコロシア連邦院議長、コサチョフ ロシア連邦院国際問題委員長、ソビャーニン モスクワ市長をはじめ20名の知事と2知事代理など、計31名

オ 内 容：

<開会式>

- 冒頭、ロシア連邦院のマトヴィエンコ議長が歓迎挨拶を行った。まず、プーチン大統領のメッセージとして、「ロシアにおける日本年、日本におけるロシア年に、日口知事会議をモスクワで開催できて嬉しい。両国の交流の輪は、地方政府にとどまらず、経済や科学、文化、教育の分野にも広がっている。両国の友好と相互理解は今後さらに深まるだろう。」と代読した。
- マトヴィエンコ議長自身の挨拶として、「上を目指す者がハシゴ、階段をつくるという言葉がある。この会議を契機に日口双方の発展を願い、新しい頂点に向かって上っていきたい。この会議では日口の地方のトップ同士のバイ会談も並行して行われると聞いているが具体的なプロジェクトについての話し合いがされることを望んでいる。土木、農業、自動車、インフラ整備など幅広い分野での地域間交流が進むことを期待する。こうした地域間の交流は中小ビジネスの強化に大きな役割を果たす。重要なのは日口双方の国民の生活が高められていくことである。最後にこの会議の成功を祈念するとともに、皆さんが来られたことをプーチン大統領に伝えるので、皆さんも今回の成果を安倍総理に伝えてほしい。」と述べた。
- また、ソビャーニン モスクワ市長から、「本日は、日口が抱える共通課題について、幅広い議論をして大きな成果を出したい。」と挨拶した。
- 日本側を代表し、全国知事会の上田会長が、「これまで地方間の関係強化に努めた結果、今や日本の11団体がロシアの地方都市と姉妹提携を締結している。その中の富山県では、本年、シアター・オリムピクスがロシア・サンクトペテルブルクとともに、初の二か国開催される。地方レベルでの交流が進めば、地方の住民同士で親しみと絆が深まる。」と挨拶した。

〈第一部〉テーマ：「日ロ関係における地域間協力の役割」

標記テーマについて、日ロ両知事からの報告が行われた。

まず、日本側を代表して、最初に石井知事から富山県とロシア沿海地方等との交流、シベリア・ランド・ブリッジ、シアター・オリムピクス等について、次のとおり報告した。

- (1) 富山県は、東京、大阪、名古屋の3大都市圏から近く、2015年3月に北陸新幹線が開業し、富山と東京は最速2時間8分で結ばれたこと、1992年に沿海地方と友好提携を締結し、本年27年目を迎えるが、2016年に、安倍総理がプーチン大統領に提案して合意された8項目の経済協力プランの主な取組みの一つとして、「地域間交流」が位置づけられたことを踏まえ、改めて、沿海地方政府との間で、①貿易・経済交流の促進、②物流の活発化、③文化、芸術・教育、スポーツ分野での関係強化、④観光関係機関の相互の関係の構築・拡大、⑤環境保全の協力促進の5分野を中心とする新しい協定を結んだこと。
- (2) 富山県はこれまで27年間、ロシア沿海地方からの留学生や技術研修員の受入れをはじめ、沿海地方日本語スピーチコンテストの開催など、人的交流を積み重ねてきたこと、文化分野でも、世界三大こども舞台芸術祭である「世界こども舞台芸術祭」に沿海地方の児童劇団が参加するなど、活発な交流を続けていること、2017年には、ウラジオストク国立経済サービス大学において、ロシア全土で初の「ロシアにおける日本年」事業として認定された「とやま文化DAY S」を開催し、来場された多くのウラジオストクなど沿海地方の皆さんに富山の伝統工芸品や地酒、食べ物の魅力を楽しんでいただいたこと。
- (3) 富山県にとってロシアは主要な貿易相手国であり、伏木富山港は、日本海側で唯一の定期コンテナ航路や、全国初のウラジオストク港との定期RORO船航路を有し、双方を合わせた定期航路は全国最多の月15便となっていること、輸出では日本で最もリードタイムが短く、日本の対ロシア物流の拠点となっていること。

伏木富山港からウラジオストクを経由し貨物をモスクワまで送る際、これまで「24日程度」かかっていたところを、2年前にロシア極東航路などを運営する船会社であるFESCOのウラジオストク支社長から伏木富山港からウラジオストク経由でモスクワまでを14日にすると言明いただいたが、その後、FESCOの社長から15日で運ぶとの表明があったこと。

このとおり、ロシア側の通関手続きや鉄道等の定時制・速達性が大幅に改善されれば、日本からのスエズ運河経由の海上ルートに比べて輸送日数が大幅に短くなり、世界の物流に大きな影響を及ぼすと考えられるので、富山県では、2008年から継続的に、シベリア鉄道を活用したモスクワ方面への貨物の輸送実験に取り組んでいる。

2014年には、こうした貨物の試行的な輸送を行う荷主企業に対する補助制度も創設し、昨年は、FESCOの協力もいただき、モスクワまでの輸送日数の検証事業を2度実施したところ、1回目は16日間、2回目は19日間と、従来と比べ輸送日数が、一定程度短縮されたことを確認できたこと。

なお、この実証実験において、ウラジオストク港における通関・荷役の手続きが、一昨年の11~12日から3~5日に短縮されたが、通関・荷役は日本では1日、中国・上海や韓国・釜山でも1~2日であり、これらの港並みに時間が短縮されれば、日本とロシアの双方の利益にかなうこと。

- (4) 富山県では、本年10月、ものづくり総合見本市2019を開催するが、前回の2年前（中国をはじめ海外の13か国・地域から150企業・団体、うちロシアからは4企業・団体が参加）に比べ、今回は、ロシアを含め、さらに多くの企業・団体にご参加いただきたいこと。

(5) 2001年にモスクワで開催された「第3回シアター・オリンピック」の際に、プーチン大統領が日本の鈴木忠志氏、ロシアのユーリ・リュビーモフ氏（故人）をはじめ、シアター・オリンピックの国際委員と懇談されたことがきっかけとなり、2006年8月には、富山県でミハイル シュヴィトコイ ロシア文化・映画庁長官（当時）など日本とロシアの政治家や文化人の代表が参加されての「第4回日露文化フォーラム」が開催されたこと。

今年の夏には、祭典史上初となる日本・富山とロシア・サンクトペテルブルクの2か国の共同で「第9回シアター・オリンピック」を開催し、富山県では、鈴木忠志芸術監督のもとで、16の国・地域が参加し、世界最先端の芸術作品30作品の上演などが予定されていること。

なお、日本・富山とロシア・サンクトペテルブルクとの共同開催については、2017年11月にプーチン大統領に鈴木忠志氏とヴァレリー・フォーキン氏が懇談した際、同大統領が了承されたこと、本年1月22日に行われた日ロ首脳会談の共同記者会見において、プーチン大統領から、サンクトペテルブルク市と富山県との共同開催について述べられたこと。

(6) 2014年10月、5年前に「富山湾」はユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟し、本年10月には、日本初となる湾クラブ世界総会を富山で開催すること、及び富山県では、国連機関のNOWPAPの調査・運営を支援するとともに、北東アジア地域自治体連合（NEAR）環境分科委員会のコーディネート自治体として、ロシア沿海地方、ハバロフスク州等の20自治体と連携し、海洋ごみ対策や環境教育、青少年交流などの環境保全の取組みを積極的に展開していること。



日ロ知事会議での石井知事



石井知事の発言の様子。左はコサチョフ
ロシア連邦院国際問題委員長

(3) ベグロフ サンクトペテルブルク知事代行との個別会談

ア 日 時：5月13日（月） 12：20～12：45

イ 場 所：ペトロフスキー宮殿 2階「庭園の客間」

ウ 富山県側：石井富山県知事

エ 相手方：ベグロフ サンクトペテルブルク知事代行

オ 内 容

○ベグロフ知事代行からお会いできて光栄であるとの言葉とともに、これまでサンクトペテルブルク市は大阪市や北海道と交流を行ってきたが、今回の面談を契機として、富山県との交流を進めていきたい。また、今回のシアター・オリンピックがロシアではサンクトペテルブルク市、日本では富山県で開催されることは大変喜ばしいこと、サンクトペテルブルク市でのシアター・オリンピック閉会式には、ロシア内外の文化人も集うので、ぜひ富山から

も参加してほしいと述べられた。

- 石井知事からは、ベグロフ知事代行とお会いできて光栄であること、今回のシアター・オリンピックスは、ロシアではサンクトペテルブルク市、日本では富山県での開催となるが、これはシアター・オリンピックスの大会史上、初の2カ国共催であり大変光栄に思っていること、シアター・オリンピックスの第1回は1995年にギリシャのデルフィ、アテネ、エピダウロス、第2回は1999年に日本の静岡で開催されたが、30年近く前に総務省から静岡県へ出向していた縁から、静岡県から総務省へ戻った後もサポートさせていただいてきたこと、その後、14年余り前に富山県知事となり第9回シアター・オリンピックスに関わることができたことを大変嬉しく、また感慨深く感じていることについて述べた。
- また、富山県での開催は8月23日から9月23日であり、富山県は、「演劇の聖地 利賀」をはじめ、アートとデザインをつなぐ富山県美術館など文化面が多彩であるのみでなく、立山・黒部をはじめ、日本を代表する屈指の観光地であること、医薬品、アルミをはじめ金属、機械、電気・電子部品などのものづくり産業も盛んであり、ご多忙と思うが、東京、大阪などへの来日の機会等を利用して、ぜひ来県いただきたいこと、また、サンクトペテルブルク市はロシアのかつての首都であり、エルミタージュ美術館をはじめ世界的に著名な文化施設も多い素晴らしい都市であり、これを機会にサンクトペテルブルク市との文化面などの交流を進めていきたいと述べた。



ベグロフ知事代行との会談



ベグロフ 知事代行との握手

(4) コサチョフ ロシア連邦院国際問題委員長との会談

ア 日 時：5月13日（月）14:10～14:25

イ 場 所：ペトロフスキー宮殿2階「宮殿の客間」

ウ 富山県側：石井知事

エ 相手方：コサチョフ ロシア連邦院国際問題委員長

オ 主な内容：

- 石井知事から、午前のセッションで石井知事から提案したシベリア・ランド・ブリッジの活性化に関し、ロシアとしてはどのようにお考えかをコサチョフ ロシア連邦院国際問題委員長に伺った。
- コサチョフ委員長からは、ロシア極東地域の物流機能強化については、3つの政策がある。1点目は、「中国の一带一路政策との連携」であるが、中国といかに連携協力していくかという課題がある。2点目は、「シベリア鉄道の近代化整備」である。ロシアの科学アカデミーの研究によると、シベリア鉄道の近代化には約8年の期間と約300億ドルの投資が必要とされている。3点目は、「北極海航路の活用」である。ロシアでは現在、原子力砕氷船でヤマールからのLNG（液体化天然ガス）を輸送しており、コンテナ貨物も合わせて運ぶことで、スエズ運河を經由

する海上ルートに比べ、輸送日数が2/3に短縮、南アフリカを回るルートとでは1/2に短縮できることから、シベリア鉄道の近代化とともに高い将来性があるものと考えているとの説明があった。

- 石井知事からは、9年前の日露知事会議の際、当時、日本の貨物のほとんどがスエズ運河経由であったが、シベリア鉄道の速達性を確保することは、日露両国の貿易や経済の活性化につながり、Win-Winの成果をもたらす提言したところ、当時共同議長として出席されていたルシコフモスクワ市長をはじめ、ロシア側の知事の方々からご賛同いただき、日露知事会議の共同声明に盛り込まれた。ただ、その後、今日まで一定の前進はあったものの、なお課題が多いので残念に思っていると伝えた。

また、2週間前に北京で習近平主席と二階自民党幹事長との会談に同席させていただいたが、中国は一带一路で貨物を中国から直接ヨーロッパへ運ぶ構想を進めているとも聞くので、ロシアはいずれ進めるお考えであれば、シベリア鉄道の速達性を早期に実現されてはどうかと申し上げた。

- コサチョフ委員長からは、個人的には、中国の一带一路構想によりシベリア鉄道の半分程度を組み込まれていくより、ロシア単独で計画を進めるほうが良いと考えている。シベリア鉄道に関しては、この9年間で少しずつではあるが整備が進んでいるが、資金面がまだ不足しているので、日本からの協力を期待しているとのお話があった。

- 石井知事からは、100年以上前から存在するシベリア鉄道の早期整備は、今後、日露両国の経済連携を強化していくうえで不可欠なことである。今から107年前、日本の歌人である与謝野晶子が、フランスのパリにいる夫の鉄幹に会いに行く際、スエズ運河経由の海路ではなく、新橋から敦賀、ウラジオストク経由でシベリア鉄道に乗ってモスクワまで11泊12日、うちウラジオストクからモスクワまでは9日間で行ったことを踏まえると、1961年に有人宇宙飛行を世界で初めて実現したロシアの技術力を持ってすれば、ロシアが本腰を入れて取り組まれば、ウラジオストクからモスクワ間を7日間程度で貨物輸送することは十分可能ではないか。

本年2月の教書演説でプーチン大統領がシベリア鉄道の貨物量を2025年までに50%増やすと表明されていることから、コサチョフ委員長のご尽力を是非ともお願いしたいと申し上げた。



コサチョフ ロシア連邦院委員長との会談



コサチョフ ロシア連邦院委員長との握手

(5) シュヴィトコイ国際交流担当ロシア連邦大統領特別代表との個別会談

ア 日 時：5月13日(月) 16:50~17:05

イ 場 所：ペトロフスキー宮殿 1階ホワイエ

ウ 富山県側：石井富山県知事、柿沢理事、清原次長

エ 相手方：シュヴィトコイ国際交流担当ロシア連邦大統領特別代表 兼 ロシア外務省特任大使、上月駐ロシア日本国特命全権大使

オ 内 容：

○石井知事から、シュヴィトコイ国際交流担当ロシア連邦大統領特別代表 兼 ロシア外務省特任大使には、2006年に本県で開催された「日露文化フォーラム」に、当時ロシア文化・映画省長官としてご来県いただいて以来の再会となり大変うれしく思う。このフォーラムは、2001年に第3回シアター・オリンピックスがモスクワで開催された際にプーチン大統領に日本の鈴木忠志氏やユーリ・リュビーモフ氏（故人）などのシアター・オリンピックス国際委員がシュヴィトコイ長官とともにクレムリンでお会いし、懇談したことを契機に立ち上げることになった経緯があり、その4回目が富山県で開催された。

その折、シュヴィトコイ長官には演劇の聖地利賀はもとより、当時の県立近代美術館で開催されたロシア現代美術展にも出席いただくなど、ご尽力いただいたことを誠にありがたく思い起こすとともに、今般、第9回目のシアター・オリンピックスがロシアとの共同開催となったことについてもシュヴィトコイ氏にご尽力・ご協力いただいておりますこと感謝申し上げます。

○また、ロシアとの共同開催の契機となった、一昨年（2014年）のプーチン大統領と鈴木忠志やフォーキン氏との面談には、今日、ご同席いただいている上月駐口大使にもご尽力いただいた。鈴木忠志氏から、是非、訪モスクワの機会にお渡ししてほしいとのことで、同氏と私の連名の招待状を持参した。東京でのセレモニーはもちろん、是非、利賀での公演にお越しいだきたいと申し上げた。

○シュヴィトコイ氏からは、公務の都合もあるが、東京はもちろんであるが、是非利賀に行きたい。今回、鈴木氏と石井知事からご招待いただき、大変嬉しく思っており、何かお役に立てることがあれば何でも言っていただきたいと述べられた。また、明日、文化次官を訪問し、文化大臣あての招待状をお渡しする旨を申し上げたところ、自分のほうも文化大臣に是非富山に行くよう伝えるが、何れにしても自分は利賀に行きたいと思っている。ロシアにとっては、日本との関係は、文化面をはじめ多くの面で、大変重要だと考えていると述べられた。

○石井知事からは、2006年に日露文化フォーラムでご来県いただいた際に、県立近代美術館のコレクションに大変高い評価をいただいたが、その後、耐震性の問題点等から、移転・新築し、富山県美術館となったことをご紹介します。シアター・オリンピックスを鑑賞されるためにご来県いただいた際には、利賀での公演はもとより、併せて、富山県美術館などもご覧いただきたいことも申し上げます。



シュヴィトコイ大統領特別代表との会談



シュヴィトコイ大統領特別代表、上月大使との記念写真

5月14日(火)モスクワ市内

(1) ステパノフ文化省次官表敬訪問

ア 日 時：5月14日(火) 10:20~10:55

イ 場 所：文化省

ウ 富山県側：石井富山県知事、上月駐ロシア日本国特命全権大使、柿沢理事、清原次長

エ 相手方：ステパノフ文化省次官 ほか3名

オ 内 容：

- 石井知事から、パヴェル・ステパノフ文化省次官とお会いでき光栄であること、今回のシアター・オリンピックスがプーチン大統領の了解を得てサンクトペテルブルク市と富山県で共同開催となったこと、これまで富山県では2006年に日露文化フォーラムが開催され、ロシアの演劇やバレエが上演されたこと、富山県利賀芸術公園では、ロシアをはじめとして世界各国の演劇人が集い、創造的活動が行われており、世界的に高い評価を受けていることを紹介するとともに、サンクトペテルブルクと共同開催となったことは大変光栄なことと受け止めていること、今回、ウラジミール・メディンスキー文化大臣への招待状を持参したところであり、大臣はもちろん、ステパノフ次官にもご都合がつけばぜひ富山へ来ていただきたいと述べた。
- ステパノフ次官から、歓迎のあいさつの後、日ロの文化交流を重視していること、富山県利賀は世界的に演劇の中心の一つとして認められていると聞いており、ロシア最古の劇場の一つであるアレクサンドリンスキー劇場と利賀が今回のシアター・オリンピックスの会場となるのは象徴的意味を持つと受け止めていること、大臣を招待いただき感謝していると述べられた。
- 石井知事から、昨日、サンクトペテルブルク市のベグロフ知事代行と面談し、シアター・オリンピックスが大成功となるよう、お互いに協力しましょうと話したことを述べた後、富山県における、富山県美術館等での文化振興施策や新たな元号「令和」の典拠となった万葉集の実質的な編纂者である大伴家持は、1800年前に5年間越中国守を務めたこと、「令和」の考案者は万葉集をはじめ、国文学の第一人者である中西進 高志の国文学館長だとほとんどの日本人は信じていること、などについて紹介した。
- ステパノフ次官からは、富山県が文化振興に尽力していることに感銘を受けたこと、富山県と万葉集のゆかりを聞き、「令和」が富山県発祥といっても過言ではないのかと感じ、新たな時代となった日本において、富山県が文化面で中心的役割を担うことを期待すると述べられた。
- 石井知事から富山県はこれまで沿海地方との交流を進めてきたが、今回のシアター・オリンピックスを契機として、サンクトペテルブルク市をはじめとして、ロシアとの文化交流にできるだけ取り組んでいきたいと述べた。



ステパノフ文化省次官との会談



ステパノフ文化省次官との握手

(2) FESCO本社 イスリン社長訪問

ア 日 時：5月14日(水) 11:30~12:50

イ 場 所：FESCO本社

ウ 富山県側：石井知事、柿沢理事、吉澤班長、清原次長

エ 相手方：イスリン・アレクサンダー取締役社長CEO ほか7名

オ 主な内容：

○事前の連絡では、イスリン社長は海外(ドイツ)出張中のため、テテリン副社長が対応することでしたが、急遽イスリン社長が会談に出席できるようになったとのことで、有難く心強く思いました。

○冒頭、イスリン社長から、石井知事を代表とする県訪問団に対する歓迎の言葉の後、FESCOは、伏木富山港をはじめとする日本の港からロシア極東への唯一のコンテナ航路を有しており、日本からロシアへの貨物の1/3以上、ロシアから日本への貨物の半分は、このコンテナ航路により輸送している。FESCOが最も重視しているのは貨物の迅速性と質の確保である。このため、昨年、早道プロジェクトを立ち上げ、日本の港からモスクワまで平均20日間、伏木富山港からは15日間(海上輸送3日、通関・荷役2日、鉄道輸送10日)で輸送することとした。シベリア鉄道を利用する物流ルートは安全で信頼できるものとし、シベリア鉄道を発展させることで、ヨーロッパまで物を運ぶルートを確立したい。

今月24日に東京でロシア鉄道と共同で開催する「シベリア鉄道 ビジネスフォーラム」において、早道プロジェクトについて詳しく説明する予定であるので、石井知事にも是非とも参加いただきたい。昨年9月の東方経済フォーラムで安倍総理は、互いの不信感の殻を破り信頼を深めていくとスピーチした。FESCOと富山県の関係も、去年はイスリン社長が富山県を訪問し、今年石井知事がFESCO本社を訪問したことから、非常に良い関係が築けていることの表れであるとの挨拶があった。

○石井知事からは、このたびの訪問に対し、ご多用の中、イスリン社長に対応いただいたことに感謝したい。昨年4月にイスリン社長が来県された際には、所用でお会いできず、副知事が対応させていただいたことから、今回お会いできたことを大変うれしく思うと挨拶した。

○また、伏木富山港は、ロシア極東航路の日本海側で唯一の寄港地であり、太平洋側の港よりも海上輸送日数が短いことなどの優位性を活かし、ロシア向け輸送実験の継続的な実施や、シベリア鉄道を利用したトライアル輸送に対する補助制度を設け、ロシア極東航路の利用促進を図ってきた。また、伏木富山港は、ロシア極東コンテナ航路が月2便、RORO船が月13便、計15便と、全国最多の定期船航路を有する港であることから、今後もFESCOと連携のもと、さらに、こうした点のPRを強化し、航路やシベリア鉄道の活性化に努めていきたい。また、伏木富山港では、ロシア航路のコンテナ取扱量も15年前の5倍となっており、引き続きコンテナ取扱貨物を増やしていきたいと述べた。

○さらに、石井知事から、2017年7月、ウラジオストクを訪問した際、ワジムFESCOウラジオストク支社長から、「伏木富山港からモスクワまで14日間で貨物を輸送する」と言明いただき、また昨年4月には、イスリン社長から「モスクワまで15日間で輸送する」との話をいただいたことを大変心強く思っている。また、こうした計画を荷主企業などにPRするため、昨年、FESCOにも協力いただき、モスクワまでの輸送日数の実態を把握するための検証事業を実施したところ、伏木富山港からモスクワまで「16~19日間」との結果であり、従来と比べて、相当程度の輸送日数の短縮を確認することができたが、目標としていた「14~15日以内」でのモスクワまでの輸送は達成できなかった。

日本の荷主企業からは、ロシアの通関・荷役について、理由がよくわからない状態のまま、

時には11日とか12日といった日数を要することを大きなリスクとして挙げられることが多い。昨年、本県が実施した実証実験でも、2回目の通関・荷役では放射能検査において規定値を超える値が検出されたとして再検査したが、結果として問題なしとされたものの、通関・荷役に5日要した。日本の税関は即日、中国の上海や韓国の釜山も1～2日で通関・荷役手続きが終わるので、改善の余地は十分あるはず。

スエズ運河経由の海上ルートでは、日本からモスクワまで35～40日を必要としており、シベリア鉄道の利用により14～15日間でモスクワまで運ぶことが可能となれば、世界の物流が大きく変化する。イスリン社長には強いリーダーシップでシベリア鉄道の定時性・迅速性の確保に努めていただいているが、引き続き、早道プロジェクトの確立に向け尽力してほしい旨述べた。

○また、石井知事からは、今回、9年ぶりに日口知事会議がモスクワで開催されたが、経済や貿易、物流や観光などで日露間の関係が緊密となっているなか、地方レベルでの交流を深めることは重要であることを確認した。この会議には、ロシア側からソビャーニンモスクワ市長、コジェミャコ沿海地方知事をはじめ22名、日本側から8人の知事が参加したほか、マトヴィエンコ連邦院議長、コサチョフ連邦院国際問題委員長も参加された。この会議において、富山県からシベリア・ランド・ブリッジの速達性を高めることは日露物流の発展に不可欠であることから、本県が取り組むシベリア・ランド・ブリッジのこれまでの経過と一定の成果について説明し、今後さらなる速達性の向上と活性化に向けて、FESCOの取組みを確認し、連携・協力していきたい旨を説明しました。

○また、この会議の後に開催された夕食懇談会の場で、107年前、日本の著名な歌人である与謝野晶子が、パリにいる夫の鉄幹に会いに行く際、スエズ運河経由の海路だと約40日も要するため、東京の新橋を出発し、敦賀、ウラジオストク経由でシベリア鉄道に乗ってモスクワ、さらにパリに行った。その際、モスクワまで11泊12日で到着しており、交通体系が飛躍的に進化している現代においては、さらなる輸送日数の短縮が十分可能で、是非実現してほしいと提案と要請を行い、多くの方々の賛同を得た。

その際、コサチョフ連邦院国際問題委員長からシベリア鉄道は何キロあるかと聞かれ、約9,300キロと答えたところ、上田埼玉県知事から北陸新幹線と同じ速度であれば、どれくらいで行けるかと質問され、北陸新幹線の平均時速が220～200キロなので2日足らずで着くと伝えたところ、高速化しようと大変盛り上がったことを伝えた。

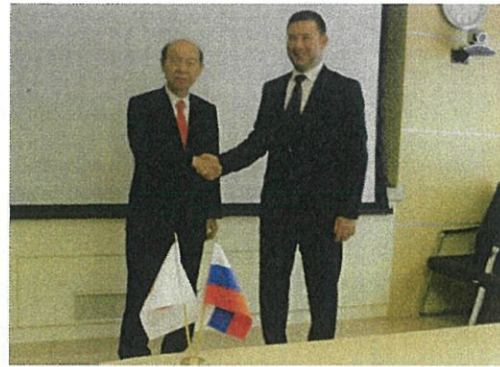
○イスリン社長からは、与謝野晶子がシベリア鉄道で夫に会いに行った話に感銘した。女性はしばしば男性よりも知恵と勇気があり、ご覧のとおり今日のFESCO側のメンバーの半数は女性である。また、富山県からシベリア鉄道の活性化に向け協力したいという言葉をもらい感謝する。プーチン大統領からは2024年までにシベリア鉄道でモスクワを経由しヨーロッパとの国境まで7日間で行くよう指示されていることから、鉄道車両の近代化を進め高速化に対応していく旨、説明があった。

シベリア・ランド・ブリッジについては、石井知事から実証実験に基づくご指摘があったが、特に荷主企業の個別ニーズに対応していくことが重要で、個別企業と連携を強化し、貨物に応じたきめ細かいサービスを提供し、手続きがスムーズにいくよう対応していきたいとの説明があった。また、早道プロジェクトを進めていくうえで、荷主企業との個別対応に当たるチームをトランスロシアエージェンシージャパン内に設置すると述べた。

○石井知事から、前向きな有益な具体的な取り組みの話聞くことができ、大変うれしく、心強く思う。今後も、イスリン社長の強いリーダーシップのもと、シベリア・ランド・ブリッジの活性化に一段と尽力していただきたいとお話した。



イスリンFESCO社長との会談



イスリン社長との握手

(3) ロシア連邦院表敬訪問

ア 日 時：5月14日(火) 15:00～16:00

イ 場 所：ロシア連邦院

ウ 知事会側：上田全国知事会長、石井富山県知事、上月駐ロシア日本国特命全権大使

など計9名

エ 相手方：マトヴィエンコ ロシア連邦院議長、コサチョフ ロシア連邦院国際問題委員長
コジェミャコ沿海地方知事 など計11名

オ 内 容：

○日口知事会議の最後の公式行事であるロシア連邦院表敬訪問に石井知事が参加した。まず、昨日の会議で開会挨拶をされたマトヴィエンコ ロシア連邦院議長から歓迎の言葉があり、今回のロシア訪問が日ロ双方の信頼関係構築の大きな一歩になることを期待しているとの話があった。

○その後、議長から日ロ関係における新たな発想や新たな取組み等について発言してほしいと求められ、まず、日本側の知事が順次発言した。

石井知事からは、まず2回にわたってマトヴィエンコ連邦院議長にお会いできたことのお礼と、今回、ロシアの地方政府のトップの皆さんと親しく懇談でき、多くのことが勉強できたことに対する感謝の気持ちを伝えた。

○また、昨日のコジェミャコ沿海地方知事との個別会談の際に、富山県は医薬品をはじめものづくり産業が盛んであり10月には国際的なものづくり見本市を開催すること、ICTを使って水や温度を管理するハイレベルな農業や先進的な産業廃棄物処理が行われていることを紹介したこと、今後、様々な交流を進めていくことで合意したこと。

○今回の第9回シアター・オリンピックスについては、芸術監督である日本の鈴木忠志氏とロシアのヴァレリー・フォーキン氏がプーチン大統領に一昨年11月に懇談した機会に会われ、日ロ共同開催の方針が決まったこと、昨日のベグロフ サンクトペテルブルク知事代行との個別会談で、サンクトペテルブルクと富山県の双方で協力し合い大成功となるよう努めることを約束したこと。

○シベリア・ランド・ブリッジについては、107年前、日本の著名な歌人・与謝野晶子がフランス・パリの鉄幹に一日も早く会いに行くため、新橋を出て敦賀、ウラジオストク経由でシベリア鉄道を使って11泊12日でモスクワに到着したエピソードを紹介し、それを踏まえれば、従来、伏木富山港からモスクワまで24日間もかかっている輸送日数はもっと短縮できると考えており、本日午前中にFESCO本社を訪問した際に、イスリン社長から伏木富山港からウラジオストクを経由してモスクワまでを15日間で輸送するプランの提示を受けたことも伝え、

最後に、ウラジオストク～モスクワの約 9,300km は北陸新幹線並みのスピードなら 2 日弱となる計算だが、有人宇宙飛行を世界で初めて実現したロシアの高い技術力をもってすればシベリア・ランド・ブリッジの迅速化は十分可能であり、是非とも実現してほしいと要請した。

- 日本側に続き、ロシア側も発言したが、コジェミャコ沿海地方知事から「石井知事が言うように、ウラジオストクからモスクワまでを 2 週間で輸送することは夢ではない。今後、具体的な動きをしたい」との発言を引き出すなど、大いに成果のある訪問となった。



ロシア連邦院での意見交換



石井知事の発言の様子